

令和5年度

学校自己点検・評価報告書

令和6年1月

筑波研究学園専門学校
自己点検・評価委員会

■「学校関係者評価委員会」について

筑波研究学園専門学校は、「工業分野」「商業実務分野」「教育・社会福祉分野」の3つの専門課程の認可を受け、専門的知識と技術とともに、高い教養を有する人間性豊かな人材を育成し、地域社会の発展と文化の向上に寄与することを目的として運営しております。

平成19年12月に学校教育法が改正され、4年制大学や短期大学と並んで専門学校においても学校評価制度が義務付けられました。本校では、平成18年度に「自己点検・評価委員会規程」を制定し、平成19年度より「自己点検・評価」を実施してきました。

また平成26年度からは文部科学省の「職業実践専門課程の認定」を受けたことを踏まえ、一層「学校運営の適正化」と「教育内容の充実」を図るため、「学校関係者評価委員会」を活用しています。

■令和5年度 学校自己点検・評価について

1. 対象期間 令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校自己点検・評価委員会

○委員長 野口 孝之 筑波研究学園専門学校 校長
委員 大森 淳子 筑波研究学園専門学校 副校長
水越 武 筑波研究学園専門学校 ITものづくり学科長
齋田 光幸 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長
原 智樹 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長
宮本 晃太 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長
福田 翔平 筑波研究学園専門学校 こども未来学科副学科長
大塚由利子 筑波研究学園専門学校 こども未来学科副学科長
押手 美加 筑波研究学園専門学校 こども未来学科副学科長
日下部俊博 筑波研究学園専門学校 総務部 部長
岡田 地余 筑波研究学園専門学校 教務部 副部長
杉山由紀夫 筑波研究学園専門学校 入学・学生支援部 副部長
山口 朋彦 筑波研究学園専門学校 入学・学生支援部 次長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠しています。

(3) 評価方法：授業アンケート、教員自己点検・評価、各学科及び部門の自己点検・評価をもとに、自己点検・評価委員会を開催し、学校自己点検・評価を取りまとめています。

3. 評価項目

- | | |
|-------------|----------------|
| (1) 教育理念・目標 | (6) 教育環境 |
| (2) 学校運営 | (7) 学生の受け入れ募集 |
| (3) 教育活動 | (8) 財務 |
| (4) 学修成果 | (9) 法令等の遵守 |
| (5) 学生支援 | (10) 社会貢献・地域貢献 |

4. 評価項目に対する評価

各項目について、次の4段階を基準とし、点数を0.1刻みで評価しています。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

5. 校訓、教育目標、教育方針

◎経営理念

「開かれた高等教育機関」の実現

◎教育理念

「産学官民」協同による教育

◎校 訓

自 主：自分で考え判断し、自らの意志と責任によって行動する

協 調：相手の立場を尊重し、互いに助け励まし合う

創 造：自らの創意と努力によって、新しい道を切り拓く

◎教育目標

- ・型にはめない教育を実践し、個性を最大限に伸長する
- ・基礎学力と専門技術の調和のある学習を通して、有為な人材を育成する
- ・新たな世界へ挑戦する不屈の精神を涵養する

6. 令和5年度の重点項目

2. 学校運営

- ・学科や生徒を支え、支援する組織・機能の強化等

3. 教育活動

- ・五箇年計画を受けた各学科の充実
- ・学科ポリシー、特徴の明確化
- ・学内授業、臨地実習、現場見学会等での交流・連携の強化
- ・各学科の企業連携担当者（副学科長等）の役割の明確化
- ・連携担当者による情報交換会の実施
- ・専門性の高い教科等でのマンパワーの強化
- ・教員の資質向上

5. 学生支援

- ・キャリア支援センターの活用
- ・つくば研究支援機構（TSORD）との連携

6. 教育環境

- ・校舎の改築、施設の更新、教材の整備等
- ・安全・安心な環境の整備

7. 学生の受け入れ募集

- ・学生（高校生等）視点の重視
- ・広報活動の戦略的な展開
- ・SNS 対策等の強化
- ・入学対象者の拡大

1. 教育理念・目標

No	設問	R4 評価	評価点
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4.0	4.0
2	専門分野における職業教育の特性は明確か	4.0	4.0
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4.0	4.0
4	学校の理念・目的・育成人材像・職業教育の特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4.0	4.0
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.9	3.9

【 状況・課題 】

- ・教育理念や校訓等について全教職員が理解を深め、教育活動(グループ学習、行事等)を通して学生への浸透を図った。
- ・DX化が進む社会変化への対応を見据え、全学科に「専門分野におけるDX」授業を導入した。
- ・令和6年度以降、ITものづくり学科をITデジタル学科に名称変更、SEスペシャリスト専攻科の新設、情報処理コースをDXデザインコースへ改編した。また、医療情報学科では3コース体制を2コース体制に改編する。

【 改善方策 】

- ・学園祭等の学校教育活動において、学生が主体的に活動できる仕組みを構築し、企画や運営、外部の方々とのコミュニケーション等の経験を通じて、社会人としての自覚と自信を涵養していく。
- ・DX化と関連の深いAIについては各学科のDX授業に取り入れる。また、身近となっている生成AIについては、全学科で活用方法に触れ遵守事項の徹底を図る。

【 特記事項 】

- ・五箇年計画に基づき、定期的に各部・各学科の進捗及び状況・課題を確認し改善を図っている。
- ・本校では、実学重視の教育を実践しており、関連機関との教育連携を図り、専門分野の業界や企業等での現場実習を通して学生が実社会に直接触れて学ぶことを大切にしている。

2. 学校運営

No	設問	R4 評価	評価点
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0	4.0
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4.0	4.0
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3.9	3.9
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4.0	4.0
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3.7	3.8
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.8	3.8
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.9	3.9
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.9	3.8

【 状況・課題 】

- ・教務等に関する関連規程（学校運営組織規程・校務会議規程・職員会議規程、編入学に関する細則等）を整備した。
- ・情報セキュリティ8ヶ条を制定し、セキュリティ面の強化を図った。
- ・情報公開については、情報提供等に関する基本方針を整備した。
- ・昨年の課題であった各部門のシステム連携、一元管理による情報共有、業務の効率化が図れる整備計画は十分に進められていない。

【 改善方策 】

- ・各部門のシステム連携は、業務の効率化につながる整備計画を他校の事例を含め検討し計画的に進める。また、生成A I活用による業務の効率化については、教職員全員が活用できるよう指針を定め、環境を整える。

【 特記事項 】

- ・「経営五カ年計画」に沿った事業計画が毎年度策定されており、またその進捗管理を行っている。

3. 教育活動 (資料A～F)

No	設問	R4 評価	評価点
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.8	3.8
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.7	3.7
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.8	3.8
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.8	3.8
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.8	3.8
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3.8	3.8
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3.6	3.7
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3.8	3.8
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0	4.0
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.8	3.9
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3.7	3.8
12	業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3.8	3.8
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための取り組みが行われているか	3.5	3.6
14	教職員の指導力育成や能力開発など資質向上を目指した研修等が行われているか	3.7	3.8

【 状況・課題 】

- ・DX授業を全学科で導入したが、DXの理解をさらに深めるため関連科目への落とし込みが必要である。
- ・授業評価体制の改善として、授業アンケートは、回答・集計の自動化により教員個人へのフィードバックは即時にできるようになったものの、学科や学校の課題分析には時間を要する状況となった。さらに研究授業・ディスカッションを通して授業改善に取り組んでいる。外部委員への授業公開については、卒業研究発表会のみ実施する。
- ・学科別研修では業界団体等と連携した研修会を実施した。
- ・指導力育成や能力開発を目的とするeラーニングによる自己研修が行われており、一般社団法人アクティブ・ラーニング協会より「ACTIVE TEACHER 輩出校」として2年連続で表彰された。
- ・令和4年度の卒業生及び就職先アンケートの結果より、資格取得状況に課題がある学科については習熟度別授業を取り入れ、一定の成果が見られた。

【 改善方策 】

- ・DX授業の関連教科への落とし込みについては、教育課程編成委員会からの意見も踏まえ行う。また、生成AIについては各業界における活用状況を踏まえ授業に導入していく。
- ・授業アンケートによる、学科や学校の課題分析が即座に行えるよう必要資料やデータを整備する。研究授業・ディスカッションについては、学科を超えて意見交換できるよう、共通科目での実施も計画する。
- ・初任者及び管理者研修について学外研修も視野に入れ、年間計画で設計する。

4. 学修成果 (資料G～I)

No	設問	R4 評価	評価点
1	就職率の向上が図られているか	3.9	3.9
2	資格取得率の向上が図られているか	3.6	3.7
3	退学率の低減が図られているか	3.6	3.6
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.6	3.7
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3.6	3.6

【 状況・課題 】

- ・2023年3月末の就職率は、100%である。
- ・資格取得に向け習熟度別・目標資格別授業、対策講座等、指導体制の見直しを行った。資格取得率は改善傾向にあるが、より一層の取り組みが望まれる。
- ・令和4年度の卒業生及び連携先企業等へのアンケートの結果を分析し、各学科で改善点を明確にして、資格取得率の向上につながるカリキュラム等の見直しを行った。

【 改善方策 】

- ・就職率100%の維持と早期就職内定の実現のため、学生が自らの将来を考え行動できるよう、各学科ともキャリア教育の充実を図る。
- ・習熟度別授業等で、学生個々の状況・課題克服につながる指導を継続する。

5. 学生支援 (資料J)

No	設問	R4 評価	評価点
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.9	3.9
2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.7	3.7
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.9	3.9
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3.6	3.6
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3.6	3.6
6	学生の生活環境への支援は行われているか	3.6	3.6
7	保護者と適切に連携しているか	3.7	3.8
8	卒業生への支援体制はあるか	3.7	3.7
9	社会のニーズ（社会人受入）を踏まえた教育環境が整備されているか	3.7	3.7
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3.7	3.7

【 状況・課題 】

- ・学科でのキャリア教育に加え、キャリア支援センターで学生支援を行い、入学から卒業までのキャリア教育の体制を整えた。令和6年度はより一層の充実を図る。
- ・外部講師によるマナー講座及び就職試験対策を行い、就職支援の充実を図った。
- ・1年次での現場見学等を充実させ、職業観の育成を促進した。
- ・令和6年度より、遠方から転居してくる学生に対して「一人暮らし応援サポート」にて金銭的な支援を導入する。
- ・学生の連絡ツールについて見直しを行った。
- ・部活動（3団体）に対して支援を行った。
- ・保護者会の視察研修旅行、保護者会の学園祭への参加を通して、保護者と教職員の交流を図った。

【 改善方策 】

- ・令和6年度より、キャリア支援センターにキャリア相談窓口を設ける等キャリア教育体制を強化する。

【 特記事項 】

- ・保健室の設置、学校医（かかりつけ医）の選任、学生健康診断の実施等、専門学校設置基準に沿って学生の健康管理を行っている。
- ・「経営五ヵ年計画」に基づき、学校施設の大規模修繕と同時に環境整備を進めている。

6. 教育環境

No	設問	R4 評価	評価点
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3.6	3.7
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3.7	3.8
3	防災に対する体制は整備されているか	3.8	3.8

【 状況・課題 】

- ・樹木の剪定等、環境美化への取組みを推進した。
- ・危機管理規程等の整備に伴い施設・設備等の整備を進めている。
- ・コロナ禍で進まなかった連携企業等の確保等、全学科で教育体制を整備している。
- ・構内の防犯カメラを増設し、安全面を強化した。また、避難訓練及び防災訓練を実施した。

【 改善方策 】

- ・令和6年度より、授業においてパソコンの持ち込みを開始するとともに、令和7年度以降のパソコン整備計画について検討する。

7. 学生の受け入れ募集

No	設問	R4 評価	評価点
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4.0	4.0
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3.7	3.7
3	学納金は妥当なものとなっているか	4.0	4.0

【 状況・課題 】

- ・SNS（インスタグラム、X）による情報発信の充実を図った。

【 改善方策 】

- ・ホームページの充実を図る。
- ・オープンキャンパス、高校ガイダンス等での教育成果の伝え方を工夫するとともに、入学者の目線に合った募集活動とする。

8. 財務

No	設問	R4 評価	評価点
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3.4	3.4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4.0	4.0
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4.0	4.0
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4.0	4.0

【 特記事項 】

- ・適切な予算を策定し、予算管理を進めながら実績値との差異を分析するなど、月次での管理を実施している。

9. 法令等の遵守

No	設問	R4 評価	評価点
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0	4.0
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0	4.0
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.8	3.8
4	自己評価結果を公開しているか	4.0	4.0

【 特記事項 】

- ・法令及び個人情報管理規程に則り、学内情報の管理を徹底している。

10. 社会貢献・地域貢献

No	設問	R4 評価	評価点
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.9	3.9
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.5	3.6
3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4.0	4.0

【 状況・課題 】

- ・地域の祭りや霞ヶ浦マラソン等の地域行事に積極的に参加し、地域の子どもたちが楽しめるイベントを実施した。

【 改善方策 】

- ・ボランティア活動に参加できるよう、奨励、支援体制を整備する。